

## ■工学研究科 物質・化学系専攻 化学工学分野

### ○ディプロマ・ポリシー

#### 【博士前期課程】

物質・化学系専攻化学工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士(工学)の学位を授与する。

1. 日本語および英語で、物質・化学、特に化学工学の専門に関する文章を読み、その内容を理解することができ、化学的、物理的、生物学的生産プロセスやその複合プロセスについて科学的・論理的な議論ができる。
2. 物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、リサイクル、資源の枯渇問題および環境への負荷などを考慮した生産プロセスの構築および評価をすることができる。
3. 物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、地球規模の環境問題を含む社会の様々な問題の解決を考慮した生産技術の創製および評価をすることができる。
4. 新しい研究課題に対し、新しい実験方法の開発および実験結果の解析を、物理・化学、および化学工学の知見に基づき行うことができる。解決方法を明確に提案することができる。
5. 文献検索システムやインターネットなどを用いて物質・化学および化学工学の専門に関する情報を収集・分析し、その価値を判断することができる。これらをまとめて日本語および英語の論理的な記述力、口頭発表力、討議などの国際的コミュニケーションができる
6. 技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を自覚し、高い倫理観で判断できる。課題研究の公正な推進を行うことができる。

#### 【博士後期課程】

物質・化学系専攻化学工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士(工学)の学位を授与する。

1. 日本語および英語で、物質・化学、特に化学工学の専門に関する文章を読み、その内容を理解することができ、化学的、物理的、生物学的生産プロセスやその複合プロセスについて科学的・論理的な議論ができる。
2. 物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、リサイクル、資源の枯渇問題および環境への負荷などを考慮した生産プロセスの構築および評価をすることができる。

3. 物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、地球規模の環境問題を含む社会の様々な問題の解決を考慮した生産技術の創製および評価をすることができる。
4. 新しい研究課題に対し、新しい実験方法の開発および実験結果の解析を、物理・化学、および化学工学の知見に基づき行うことができる。従来にはない新しい解決方法を独立して提案することができる。
5. 文献検索システムやインターネットなどを用いて物質・化学および化学工学の専門に関する情報を収集・分析し、その価値を判断することができる。これらをまとめて日本語および英語の論理的な記述力、口頭発表力、討議などの国際的コミュニケーションができる。
6. 技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を自覚し、高い倫理観で判断できる。課題研究の公正な推進を行うことができる。